



学術局からのお知らせ(重要)

新人教育プログラム修了者の手続きについて

新人教育プログラムの所定の単位を取得された方は、  
下記の書類を郵送にて、学術局新人教育部までお送り下さい。

**平成16年度締切日：平成17年3月22日(必着)**

1. 生涯学習手帳P2～3のコピー

氏名、会員番号、入会年度などの記載ページ

2. 生涯学習手帳の新人教育プログラムページのコピー

ただし、検印の押してあるページのみ

最初に受講したテーマ(履修開始日)と

最後に受講したテーマ(履修終了日)に

わかりやすいように 印を記入して下さい。

注) 修了証は平成17年4月以降に勤務先へ送付いたしますので、平成17年4月から勤務先が変更となる方は必ず別途明記して下さい。

不明な点につきましては遠慮なく下記までお問い合わせ下さい。なお、できる限り電話での連絡をお願い致します。

学術局新人教育部(送付・問い合わせ先)

〒039-8564 弘前市本町66-1

弘前大学医学部保健学科 理学療法学専攻

長谷川 至 宛

TEL&FAX 0172-39-5981 E-mail: pthase@cc.hirosaki-u.ac.jp

## ～ザンジバル通信 Part4～

瓜田 一貴

「Jambo (ジャンボ) ? お元気ですか?」今回は、活動から少し離れ、年末年始にアフリカ最高峰のキリマンジャロ山に登ったことを紹介したいと思います。

12月28日から1月2日までの5泊6日間の日程。約1800mから出発し、1日目・2日目はなんだかハイキング気分、多少の疲労はあったものの、順調であった。1日、5,6時間程歩き約1000mずつ高度を上げ、2日目で富士山を越える約3800mに到着。3日目の朝、前日まで茶色であった地面が白い雪に覆われていた。どうやら前夜降ったらしく、寒さよりも生で見る久しぶり雪に胸が躍った。3日目は一度4600m付近まで上り、再び3800mまで下りた所でキャンプの予定だった。ところが、疲労や寒さのためか歩く速度が落ち、予定を変更し4300m付近から下り始め、途中雨に降られたりもしたが、なんとか夕方キャンプサイトに到着。その頃になると全身の疲労も溜まり、表情に疲労の色が見え始め、頭痛を訴える人もでてきた。4日目、低木植物もなくなり、水もなく赤土と岩だらけで生物が住めないような殺伐としたところを歩き続けた。午後徐々に晴れ間が見えたが、逆にジリジリと太陽に照りつけられ、体中の水分と体力が奪われていくようだった。しかしその代わりに、空が美しく、実に“青”かった。普段地上で見る濃さとは違い、本当に真っ青で綺麗だった。思わず見とれ、吸い込まれそうになってしまう程だ。周囲に生き物の気配はなく、見渡す限り岩だらけの荒野。聞こえるのは、自分たちの大地を踏みしめる足音と息づかいのみ。真っ青な空の中を雲がゆったりと流れていく。自然が織り成す美しい景観と不思議な時間の流れにふと我を忘れてしいそうになった。そのようなことを感じながら4日目のキャンプサイト、標高約4800mにあるバラフハットに到着。

夕食後、数時間仮眠し、大晦日の0:00過ぎから、山頂アタックに向かった。暗闇の中、足元を照らすヘッドライトの明かりを頼りに登る。吐く息は白く、キリリとした寒さに体が引き締められた。時折、ふと空を見上げると、満天の星空に感動！手を伸ばしたら届きそう・・・と思うほど、星たちが近くまぶしく輝いている。しかしながら、実際はこのアタックの時が一番きつかった。疲労と眠さと頭痛で、もういつやめてもおかしくない状態だった。少しの休憩で、ふと気づいたら寝ていて、ガイドの出発の合図で寝ていたことに気づいたりすることも。寝たら危険とはわかっているが、体はもう疲れ切っていた。気持ちで諦めていたら、足は止まっていたと思う。ただひたすら気力のみで足を進め、少しずつ山頂へ。山頂まであと1時間程の5732mのステラポイントという場所で、東の空が明るみ始め、雲海の間から太陽が顔を出し始めた。当初の目標であった「初日の出は山頂で！」とはいかなかったのだが、何とも言い様のない美しさと偉大さに眼を奪われてしまった。更に、右手に見えていた氷河に目をやると、今昇って来たばかりの太陽に照らされ、それらの氷河は長い歴史の重みと共に何か神秘的な美しさを湛えていた。そこで30分ばかりの休憩後、目指す山頂の5895mのウフルピークへ向け歩き始めた。歩いては休み、また歩きの繰り返しでやっとの思いで足を運び、7:20頃ようやく到着！！うれしいのはうれしかったのだが、正直登り切った！という充実感、達成感に浸るよりも疲労が強く、一刻も早く下山して休みたかった。でも、なんにせよ登りきったのだ。

やっと登りきったのだが、山は登って終わりじゃない。そう、上ったら下りなきゃいけない。頂上での感慨もあっという間。疲れ切った体に再び鞭を入れ、下山。下山は地球の重力にまかせ半分勢いで駆け下りた。その日のうちに3000m付近まで一気に降り、最終日はそこから麓まで降りた。

この登山で自然の雄大さ・偉大さを改めて肌で感じた。僕にとってそんな年末年始だった。それではTutaonana!

# - ご案内 -

## 日本A K A研修会

- 【期 日】2005年3月27日(日) 9:30~15:00
- 【会 場】ユートリー(八戸地域地場産業振興センター)  
JR八戸駅下車、徒歩約3分
- 【受講対象者】医師、PT、OT、STのみ
- 【参加費】日本A K A医学会会員 12,000円  
日本A K A研究会理学療法士会会員 12,000円  
非会員 15,000円
- 【参加人数】約30名
- 【指導者】日本A K A医学会指導医・専門医
- 【研修会事務局】〒185-0012 東京都国分寺市本町4-12-14  
三多摩医療生協・国分寺診療所 佐藤 文秀  
電話042-325-0766  
Fax042-325-2663  
Mail: kokushin-2@jcom.home.ne.jp
- 【申込方法】研修会事務局へ郵送・FAXまたはE-mail(申込用紙は県土会事務局へ請求)
- 【締め切り】2月末(定員になり次第受付終了)
- 【プログラム案】
- 9:00 受付開始
- 9:30 開会  
A K A - 博田法についての若干の講義  
実技講習(仙腸関節)
- 12:00 - 昼 食 -
- 13:00 実技講習(仙腸関節、椎間関節、肋椎関節、肩鎖関節、胸鎖関節、胸肋関節)構成運動
- 15:00 閉会

## 第1回東北・北海道ブロック AKA導入コース

### 日本AKA研究会理学療法士会主催

本コースは、基本的な AKA の技術・知識の獲得を目的として知識の伝達とともに技術の指導を行います。講師は日本 AKA 研究会理学療法士会認定のインストラクターが務めます。最新の技術講習が得られるように、少人数制での技術指導を行います。実技指導はレベル別にグループ分けして行います。

1. 日 時 : 平成 17 年 6 月 11 日 (土) ~ 6 月 12 日 (日)  
9 : 30 ~ 16 : 30
2. 会 場 : 岩手リハビリテーション学院  
岩手県盛岡市長田町 15 - 16 (JR 盛岡駅徒歩 15 分)
3. コース内容 : < 講義 > AKA の基礎 < 実技 > 仙腸関節の評価  
< 実技 > 仙腸関節・肋椎関節・胸肋関節・椎間関節・四肢副運動技術
4. 実技指導 : 1 ベッド 3 名で 4 ベッドに 1 名のインストラクターが指導します。
5. 講 師 : シニアインストラクター 橋田薫、他認定インストラクター
6. 取得単位数 : 4 単位
7. 受講資格 : 日本関節運動学的アプローチ研究会理学療法士会会員・PT・OT
8. 募集人員 : 54 名 (研究会会員優先・先着順)
9. 受講費用 : 1 万 5 千円 (非会員は 2 万円)
10. 申込方法 : FAX または E-mail にて下記宛に連絡先を明記し、研修会申し込み用紙の請求をお願い致します。折り返し郵送にて申し込み用紙をお送りします。尚、入会申し込み用紙が必要な方はその旨の明記もお願い致します。
11. 参加申込締切 : 平成 17 年 4 月 30 日
12. 申し込み先 : 三友堂病院 リハビリテーション室 菅野英雄  
〒 992 - 0045 山形県米沢市中央 - 1-219  
TEL 0238-24-3700  
FAX 0238-24-3709  
E-mail reha @ sanyudo.or.jp

### ~ 理学療法士求人情報 ~

#### 独立行政法人国立病院機構 八戸病院

募集職種・人員 : 理学療法士 1 名  
待遇 : 国立病院機構職員給与規程による (詳細は面接にて)  
問合せ先 : 独立行政法人国立病院機構 八戸病院  
〒 031-0003 八戸市吹上三丁目 13-1  
TEL : (0178)45-6111 FAX : 0178-43-7814  
担当 : 庶務班長 田中

## 大里脳神経リハビリテーションクリニック

- 募集職種 : 常勤理学療法士 1名 (患者増加につき急募)  
待遇 : 当院規定により優遇 (詳細は面談にて)  
学会、研究会への参加を奨励します。  
当院紹介 : 平成16年12月1日に開院した脳神経疾患診療と外来リハビリテーションを重視する無床診療所です。訓練室は理学療法、作業療法、言語聴覚療法に対応した面積と設備となっており、現在スタッフは計12名です。意欲のある方の応募を期待しています。  
応募方法 : 下記までお気軽にご相談ください。  
〒031-0816 青森県八戸市新井田西3丁目15-15  
TEL : 0178-30-1112 FAX : 0178-30-1600  
E-mail : [runners-high1930@h.vodafone.ne.jp](mailto:runners-high1930@h.vodafone.ne.jp)  
担当 : 院長 大里孝夫

## 学校法人臨研学舎 東北メディカル学院

1. 募集職種 : 理学療法学科 専任教員
2. 募集人員 : 若干名
3. 応募資格 : (1) 理学療法士免許取得後実務経験5年以上  
(2) 学生の教育・指導に情熱のある方
4. 待遇等 : 給与 / 当校規定により優遇します 大学院進学援助制度あり
5. 応募方法 : まずは下記まで電話またはメールで連絡ください  
〒039-1522 青森県三戸郡五戸町字苗代沢3-638  
TEL ; 0178-61-0606 FAX ; 0178-61-0034  
URL ; <http://www.rinken.ac.jp> E-mail ; [info@rinken.ac.jp](mailto:info@rinken.ac.jp)  
担当 ; 加福

### 【事務局通信】

**異動の時期となりました。**  
**異動のある方は、巻末の会員異動届に必要な事項記入の上、事務局まで送付してください。**

〒038-1216 南津軽郡常盤村神字亀田2-1  
県士会事務局 ときわ会病院 リハビリテーション科内  
佐藤 比呂子 宛  
PHONE・FAX 0172-65-3698  
E-mail ; [ptaomori@m16.alpha-net.ne.jp](mailto:ptaomori@m16.alpha-net.ne.jp)

## 【財務部通信】

会費自動引き落とし者へ

平成 16 年度の自動引き落としが 5月27日(木) に行われました。下記へ振り込みをお願いします。  
柳 郁子、大塚 聖子、桜庭 麗香、菊池 宏充、山下 奈津子

会費自動引き落とし以外者へ

下記へ振り込みをお願いします(2月23日現在)  
中野 のぞみ、樋口 亜絹子、大久保 千明、伊藤 紗岐子

会費納入方法は下記の通りです。

**士会費 12,000 円の振込先** 振込み手数料 210 円  
みちのく銀行 黒石支店 店番 024 口座番号 0117013  
名義名 青森県理学療法士会 代表者 佐藤 洋

**協会費 11,000 円の振込先** 振込み手数料 120 円  
郵便振替で 口座番号 00130 - 3 - 78642  
加入者名 社団法人 日本理学療法士協会

通信欄に

**記入例** [平成 16 年度会費 1 名分 佐藤洋 8692] 協会会員番号  
と記入して下さい。払込人・住所・氏名は、施設名の住所・氏名で結構です。

尚、領収証が必要な方は、下記へ御連絡下さい(昨年、連絡を下さった施設には入金を確認できれば送付します)。また、どうしても 6 月 15 日まで納入できない人は、自動引き落としにして下さい(振込手数料無料、公共料金と同じく忘れなくて済む)。連絡を下されば引き落としの申込書を送らせて頂きます。どうぞ御協力をお願いします。

不明な点は 国立青森病院 リハビリテーション科  
佐藤 洋  
TEL 0172-62-4055(271)

## 【ニュース編集部通信】

次回の原稿締切は、平成17年3月22日(火曜日)です。  
原稿を依頼された方、もしくは掲載記事をお持ちの方は、次頁の各支部担当に  
フロッピーディスク、FAX、E-mail のいずれかにて、送付して下さい。

青森県士会ホームページアドレス  
<http://www.aa.alpha-net.ne.jp/ptaomori/>

## § ニュース編集部支部担当者 §

東青・むつ下北：工藤 寛教（あおもり協立病院）

〒030-0847 青森市東大野2丁目1番地10号

TEL 017-762-5500 FAX 017-729-3260

E-mail: celeste\_urg1@mail.goo.ne.jp

（電話・FAXは病院、メールアドレスは工藤先生個人のもので、ご注意ください。）

三八・上十三：川口 恵理（シルバー病院）

〒039-1161 八戸市河原木字八太郎山10-444 TEL 0178-28-4000 FAX 0178-20-4962

E-mail: ptsilver4000@yahoo.co.jp

（リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要）

中弘南黒・西北五：藤田 俊文（黎明郷リハビリテーション病院）

〒038-0194 南津軽郡碓ヶ関村碓ヶ関字湯向川添30 TEL 0172-45-2231 FAX 0172-45-2373

E-mail: reimeipt@h7.dion.ne.jp

（リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要）

事務局ニュース編集部長；梅村 孝博（東北メディカル学院）

〒039-1522 五戸町字苗代沢3-6 TEL 0178-61-0606 FAX 0178-61-0034

E-mail: pt.umemura@rinken.ac.jp

編集委員；伴 久美子（黒石病院）

工藤 寛教（あおもり協立病院）

藤田 俊文（黎明郷リハビリテーション病院）

川口 恵理（シルバー病院）

豊嶋 大輔（八戸城北病院）

佐々木幸重（十和田東病院）

外交局広報部（HP担当）；安田 友久（青森労災病院）

---

### 編集後記

つい先日のおトラで起きた大津波は皆さまの記憶にも新しく、自然の力のすごさに驚いた方も多  
いと思います。その自然の異常気象は他人事ではなく、私の身近な所でも起きていたように感じま  
す。今年の冬は例年になく寒さと雪の多さで私も苦しむところでもあります。大津波や新潟中越地震の  
ように大勢の死者がでるわけではありませんが、八戸の冬は死に直面する場合もあるのです。八戸は  
「豪雪」というよりは「凍結」であり、特に車での運転などは本当に注意しないと死に直面してしま  
います。つい最近にも、通勤途中で車がひっくり返ってお腹を出していたり、車の前が潰れて普通自  
動車が軽自動車になっていたりと私がよそ見運転をしてしまいそうなほど、すごいことが道路上では  
繰り返されています。明日はわが身と思い、毎日気をつけて運転している今日この頃です。は～る  
よ来い！は～やく来い！

（文責：梅村）

---

## 奥 付

編集；青森県理学療法士会

発行；PT 事務局・ときわ会病院リハビリテーション科内  
〒038-1216 南津軽郡常盤村榊字亀田2-1

PHONE・FAX 0172-65-3698

E-mail；ptaomori@m16.alpha-net.ne.jp

